

# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019576

International filing date: 27 December 2004 (27.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2003-434854  
Filing date: 26 December 2003 (26.12.2003)

Date of receipt at the International Bureau: 03 March 2005 (03.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

04.01.2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 3 年 1 2 月 2 6 日  
Date of Application:

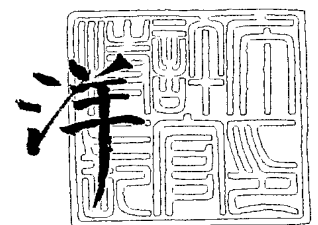
出 願 番 号            特 願 2 0 0 3 - 4 3 4 8 5 4  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 3 - 4 3 4 8 5 4 ]

出      願      人            久 光 製 薬 株 式 会 社  
Applicant(s):

2 0 0 5 年    2 月 1 8 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



出証番号    出証特 2 0 0 5 - 3 0 1 2 1 5 3

【書類名】 特許願  
【整理番号】 HM1041  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 A61N 1/30  
【発明者】  
    【住所又は居所】 茨城県つくば市観音台 1 丁目 2 5 番 1 1 号 久光製薬株式会社  
                        筑波研究所内  
    【氏名】 安達 博敏  
【発明者】  
    【住所又は居所】 茨城県つくば市観音台 1 丁目 2 5 番 1 1 号 久光製薬株式会社  
                        筑波研究所内  
    【氏名】 肥後 成人  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000160522  
    【氏名又は名称】 久光製薬株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100090583  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 田中 清  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100098110  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 村山 みどり  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 051035  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

乾燥薬物を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記吸収材の周囲に配置され下面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および壁材上に配置され中央部に開口を有する支持体と、前記支持体下面に配置された電極と、前記支持体上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えたことを特徴とする用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 2】**

前記吸収材の下面に溶液透過膜を備えたことを特徴とする請求項 1 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 3】**

前記吸収材および粘着層の下面に前記吸収材との対向部分が凹形状をしたライナーを備えたことを特徴とする請求項 1 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 4】**

乾燥薬物を含有する薬物含有層と、前記薬物含有層上に配置され液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記吸収材の周囲に配置され下面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および壁材上に配置され中央部に開口を有する支持体と、前記支持体下面に配置された電極と、前記支持体上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えたことを特徴とする用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 5】**

前記薬物含有層および粘着層の下面に前記薬物含有層との対向部分が凹形状をしたライナーを備えたことを特徴とする請求項 4 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 6】**

支持体と、前記支持体上面に配置された電極と、前記支持体および電極上に配置され乾燥薬物を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記支持体上で前記吸収材の周囲に配置され上面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および粘着層上に配置され中央部に開口を有するライナーと、前記ライナー上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えたことを特徴とする用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 7】**

前記吸収材の上面に溶液透過膜を備えたことを特徴とする請求項 6 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 8】**

支持体と、前記支持体上面に配置された電極と、前記支持体および電極上に配置され液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記支持体上で前記吸収材の周囲に配置され上面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材上に配置された乾燥薬物を含有する薬物含有層と、前記薬物含有層および粘着層上に配置され中央部に開口を有するライナーと、前記ライナー上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えたことを特徴とする用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 9】**

前記隔膜の溶解液接触部が長円形状を有しており、前記溶解液溜めの突起部が前記長円形状の長手方向に伸びる線状の先端部を有することを特徴とする請求項 1 ～ 8 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

**【請求項 10】**

前記線状の先端部の長さを  $L_1$  とし、前記隔膜の溶解液接触部の長手方向の長さを  $L_2$

としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L1 \leq 0.5 \times L2$  の関係を満たすことを特徴とする請求項 9 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 11】

前記隔膜の溶解液接触部が円形状を有しており、前記溶解液溜めの突起部が十字状の先端部を有することを特徴とする請求項 1～8 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 12】

前記十字状の先端部の長さをそれぞれ  $L10$ 、 $L11$  とし、前記隔膜の溶解液接触部の直径を  $L2$  としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L10 \leq 0.5 \times L2$  および／または  $0.1 \times L2 \leq L11 \leq 0.5 \times L2$  の関係を満たすことを特徴とする請求項 10 記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 13】

前記支持体の開口周辺部がそれ以外の部分よりも前記吸収材側にへこんでいることを特徴とする請求項 1～5 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 14】

前記支持体の周辺部から開口に向かって前記吸収材側へ傾斜を設けたことを特徴とする請求項 1～5 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 15】

前記ライナーの開口周辺部がそれ以外の部分よりも前記吸収材側にへこんでいることを特徴とする請求項 6～8 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【請求項 16】

前記ライナーの周辺部から開口に向かって前記吸収材側へ傾斜を設けたことを特徴とする請求項 6～8 のいずれかに記載の用時活性化型イオントフォレーシスデバイス。

【書類名】明細書

【発明の名称】用時活性化型イオントフォレーシスデバイス

【技術分野】

【0001】

本発明はイオントフォレーシスデバイスに係り、特に用時に溶解液を供給して薬物を活性化させて用いる用時活性化型イオントフォレーシスデバイスに関するものである。このデバイスは、電気的エネルギーを利用して生体内へ生理活性物質を送達するための装置や、生体内から生体外へ診断物質を抽出するための装置に利用される。

【背景技術】

【0002】

イオントフォレーシス（例えば、Acta Dermatol venereol, 6 巻, 93 ページ, 1984 年）は、電気的なエネルギーを用いて皮膚や粘膜から薬物を送達する方法である。また、同じ原理を用いて、生体内から診断物質を取り出して病状を観察する方法がある（例えば、Nature Medicine, 1 巻, 1198-120 ページ, 1995 年）。これらの方法を実施するために、生理活性物質を送達するための装置、および生体内から診断物質を取り出すための装置として、所望の構造を有するイオントフォレーシスデバイスが用いられる。

【0003】

従来、化学的に不安定な薬物を含有するイオントフォレーシスデバイスを製造する場合、その製剤の組成を工夫することにより薬物の安定化を図ることが一般的であった。しかし、薬物の性質上、処方工夫では薬物の安定性が十分に得られない場合もある。そこで、薬物を乾燥状態で保存しておき、用時に乾燥状態の薬物に液体を供給して用いるイオントフォレーシスデバイスが提案されている。

【0004】

例えば、特許文献 1 には、イオントフォレーシス用インタフェースが開示されている。このインタフェースは、多孔体の片面に乾燥した薬物粒子付着面を形成しておき、使用する際、薬物粒子付着面と生体皮膚とが接触される。搬送液が封入されているリザーバを支持部材の上から、リザーバに設けられた中空針を刺入して連通させ、搬送液を中空針及び導電性部材を介して多孔体に供給する。次に、導電性部材に通電を行う。搬送液は、導電性部材、多孔体を浸透していき、薬物粒子付着面に到達する。搬送液は薬物粒子付着面と混じり合い、液状となる。生体皮膚表面上では、液状化した薬物層が形成され、更に電気力によって生体内へ薬物が浸透していく。

【特許文献 1】特許第 2795466 号公報

【0005】

また、特許文献 2 には、イオントフォレーシス用の新規プラスター構造体が開示されている。この構造体は、例えば、その第 4 図に示されるように、電解質溶液を封入したカプセルをプラスター構造体の上部に設けておき、このカプセルと水含有層とのあいだに配したアルミ箔等の薄膜を貼着時に破壊して電解液を含浸させる構造を有する。そして水分解性の薬物を用いる場合には、薬物含有層と水含有層を乾燥状態に調整しておき、電解質溶液を封入したカプセルを具備したプラスター構造体として需要に供するのが良いとされている。

【特許文献 2】特公平 5-84180 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

このようにイオントフォレーシスデバイスにおいて、薬物を乾燥状態で保存しておき、用時に乾燥状態の薬物に液体を供給する場合、液体は薬物の量に応じた量で供給されなければならない。しかしながら、上記従来技術においては、搬送液または電解質溶液を封入したリザーバまたはカプセルについての詳細な構造が明らかにされておらず、これらのものでは、装置使用後、搬送液または電解質溶液がリザーバまたはカプセルに残るおそれが

あり、液体を薬物の量に応じた量で供給できないおそれがある。

【0007】

従って本発明の目的は、用時に溶解液を薬物の量に応じた量で供給することができる用時活性化型イオントフォレーシスデバイス（電極構造体）を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的は、乾燥薬物を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記吸収材の周囲に配置され下面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および壁材上に配置され中央部に開口を有する支持体と、前記支持体下面に配置された電極と、前記支持体上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えた用時活性化型イオントフォレーシスデバイスにより達成される。ここで、前記吸収材の下面にはさらに溶液透過膜を備えることができ、また、前記吸収材および粘着層の下面には前記吸収材との対向部分が凹形状をしたライナーを備えることができる。

【0009】

また本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスは、乾燥薬物を含有する薬物含有層と、前記薬物含有層上に配置され液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記吸収材の周囲に配置され下面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および壁材上に配置され中央部に開口を有する支持体と、前記支持体下面に配置された電極と、前記支持体上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えるものである。ここで、前記薬物含有層および粘着層の下面には前記薬物含有層との対向部分が凹形状をしたライナーを備えることができる。

【0010】

また本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスは、支持体と、前記支持体上面に配置された電極と、前記支持体および電極上に配置され乾燥薬物を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記支持体上で前記吸収材の周囲に配置され上面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材および粘着層上に配置され中央部に開口を有するライナーと、前記ライナー上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えるものである。ここで、前記吸収材の上面には溶液透過膜を備えることができる。

【0011】

また本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスは、支持体と、前記支持体上面に配置された電極と、前記支持体および電極上に配置され液体を吸収できる材料で構成された吸収材と、前記支持体上で前記吸収材の周囲に配置され上面に粘着層を有する壁材と、前記吸収材上に配置された乾燥薬物を含有する薬物含有層と、前記薬物含有層および粘着層上に配置され中央部に開口を有するライナーと、前記ライナー上に配置された隔膜と、前記隔膜上に配置され前記薬物を溶解する溶解液を前記隔膜との間に保持し押圧により前記隔膜を破壊するための突起部を有する溶解液溜めとを備えることができる。

【0012】

ここで、前記隔膜の溶解液接触部は長円形状を有しており、前記溶解液溜めの突起部は前記長円形状の長手方向に伸びる線状の先端部を有するようにすることができる。この場合、前記線状の先端部の長さを $L1$ とし、前記隔膜の溶解液接触部の長手方向の長さを $L2$ としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L1 \leq 0.5 \times L2$ の関係を満たすことが好ましい。また、前記隔膜の溶解液接触部は円形状を有しており、前記溶解液溜めの突起部は十字状の先端部を有するようにすることができる。この場合、前記十字状の先端部の長さをそれぞれ $L10$ 、 $L11$ とし、前記隔膜の溶解液接触部の直径を $L2$ としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L10 \leq 0.5 \times L2$  および／または  $0.1 \times L2 \leq L11 \leq 0.5 \times L2$  の関係を満たすことが好ましい。

## 【0013】

また、前記支持体の開口周辺部がそれ以外の部分よりも前記吸収材側にへこんでいることが好ましい。さらに、前記支持体の周辺部から開口に向かって前記吸収材側へ傾斜を設けることが好ましい。同様に、前記ライナーの開口周辺部がそれ以外の部分よりも前記吸収材側にへこんでいることが好ましい。さらに、前記ライナーの周辺部から開口に向かって前記吸収材側へ傾斜を設けることが好ましい。

## 【発明の効果】

## 【0014】

本発明によれば、用時に溶解液を薬物の量に応じた量で供給することができる用時活性化型イオントフォレーシスデバイスを得ることができる。また、溶解液溜め中の液残りを少なくすることができるので、薬物をまんべんなく活性化することができる。本発明による溶解液の供給により薬物の濃度が各所でほぼ均一となる。また、用時において溶解液溜めの溶解液を速やかに流すことができる。

## 【発明を実施するための最良の形態】

## 【0015】

図1は本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの一構成例を示す図で、(a)は平面図、(b)は(a)のX-X断面図である。本例のデバイスは、図示のように、乾燥した薬物10を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材11と、吸収材11の周囲に配置され下面に粘着層12を有する壁材13と、吸収材11および壁材13上に配置され中央部に開口14を有する支持体15と、支持体15下面に配置された電極25と、支持体15上に配置された隔膜20と、隔膜20上に配置され薬物を溶解する溶解液を隔膜20との間に保持し押圧により隔膜20を破壊するための突起部17を有する溶解液溜め18とを備える。突起部17は、例えば、図示のように線状の先端部を有しており、隔膜20に接触または近接して配置される。吸収材11および粘着層12の下面にはライナー19が取り外し可能に取り付けられている。ここで、溶解液溜め18と隔膜20は別個に形成してもよいし、一体的に形成してもよい。また、支持体の開口14の形状は特に限定されないが、吸収材11に溶液をまんべんなく供給できる形状であればよく、例えば円形状であることが好ましい。この場合、開口14の寸法は吸収材11の大きさにもよるが、例えば直径2mm~10mmであり、好ましくは4mm~8mmである。なお、支持体15を省略して隔膜20にその機能を兼用させることもできる。この場合は予め開口は設けず、用時に突起部により開口が形成されることになる。

## 【0016】

電極25およびリード部26は、例えば支持体15下面に印刷することにより作製される。電極25はリード部26を介して図示しない電源装置の一方の出力端子(例えば+極)に接続される。電源装置の他方の出力端子(例えば-極)は、図示しないカウンターデバイスに接続される。カウンターデバイスの構造は本イオントフォレーシスデバイスと同様の構成にすることができるが、薬物は必ずしも含む必要はない。電源装置からはイオントフォレーシス用の電圧または電流が本イオントフォレーシスデバイスおよびカウンターデバイス間に付与される。

## 【0017】

用時には、まず、溶解液溜め18または突起部17の上面を押圧すると、突起部17が隔膜20を破る。この際、隔膜20は突起部17の線状の先端部に沿って大きく破れ、溶解液溜め18中の溶解液が支持体15の開口14を介して吸収材11に流れる。この溶解液により、吸収材11が湿潤状態となり薬物10がまんべんなく活性化される。その後、ライナー19を取り外し、本デバイスを皮膚に貼る。イオントフォレーシス用の電源装置を始動させることにより電圧または電流が本イオントフォレーシスデバイスおよびカウンターデバイス間に付与される。これにより、活性化された薬物が皮膚に浸透する。本例では、デバイス本体に溶解液溜め18が付いたままなので、溶解液溜め18中の溶解液が空になるまで貼付を待つ必要はない。用時に溶解液溜め18中に溶解液が残っていても徐々に吸収材11に供給されるからである。



## 【0018】

本発明のイオントフォレーシスデバイスでは各部において次のものを使用することができる。

薬物としては、治療目的に応じた薬物を各種選択することができ、イオントフォレーシスを用いた薬物投与に際して、薬物投与量の許容精度が厳しい薬物に対して特に有用である。例えば、インシュリンなどのように有効血中濃度と副作用発現濃度の幅が狭い薬物に対して本デバイスは安全に使用できる。また、その他の有効血中濃度と副作用発現濃度の幅が比較的広い薬物においても、電気的な誤差要因を極力抑制することは薬物の高い安全性および有効性を得るために重要である。

## 【0019】

本発明において使用される薬物（有効成分）には、薬理活性を有する化合物であれば薬剤の種類及び塩の種類、各薬剤の適応等には特に制限されず、例えば、抗生物質、抗真菌剤、抗腫瘍剤、強心剤、不整脈治療剤、血管拡張剤、降圧剤、利尿剤、降圧利尿剤、循環器用剤、抗血小板薬、止血剤、抗高脂血症剤、解熱、鎮痛、消炎剤、抗リウマチ、弛緩剤、鎮咳去たん剤、抗潰瘍剤、鎮静剤、抗てんかん剤、抗うつ剤、抗アレルギー剤、糖尿病治療剤、抗結核剤、ホルモン剤、麻薬拮抗剤、骨吸収抑制剤、血管新生阻害剤、局所麻酔剤などが用いられる。本デバイスの好ましい使用形態には有効成分の塩酸塩が挙げられる。また、各電極構造体に含有する有効成分の種類及び数には特に制限はなく、薬理効果を増強するために異なる有効成分を各電極構造体に含有することもできる。さらに、好ましい形態としては少なくとも1種以上の同一有効成分を2つのデバイス（電極構造体）に含有することである。

## 【0020】

抗生物質としては、例えば、硫酸ゲンタンマイシン、リピドマイシン、硫酸シソマイシン、塩酸テトラサイクリン、アンピシリン、セファロチンナトリウム、塩酸セフォチアム、セファゾリンナトリウム、チエナマイシン、スルファゼシン、硫酸ストレプトマイシン、硫酸カナマイシン、リファンピシン、塩酸バンコマイシン、オフロキサシン、硫酸セフォセリスなどが用いられる。

抗真菌剤としては、例えば、アンフォテリシンB、イトラコナゾール、フルコナゾール、ミコナゾール、2-[(1R, 2R)-2-(2, 4-ジフルオロフェニル-2-ヒドロキシ-1-メチル-3-(1H-1, 2, 4-トリアゾール-1-イル)プロピル)-4-[4-2, 2, 3, 3-テトラフルオロプロポキシ]フェニル]-3(2H, 4H)-1, 2, 4-トリアゾロンなどが用いられる。

抗腫瘍剤としては、例えば、塩酸ブレオマイシン、テガフル、アクチノマシンD、マイトマシンC、アドリアマイシン、フルオロウラシル、6-メルカプトプリン、シタラビン、プロカルバジン、塩酸ドキソルビシン、メトトレキサート、クエン酸タモキシフェンなどが用いられる。

抗結核剤としては、例えば、硫酸ストレプトマイシン、硫酸カナマイシン、イソニアジド、塩酸エタンブトール、ピラジナミドなどが用いられる。

## 【0021】

強心剤としては、例えば、トランスバイオキソカンファー、テオフィロール、塩酸ドパミン、塩酸ドブタミン、ユビデカレノンなどが用いられる。

不整脈治療剤としては、例えば、塩酸プロプラノール、塩酸オキシプレノール、塩酸プロカインアミド、リドカイン、フェニトイン、酒石酸メトプロロール、塩酸ベラパミル、塩酸ジルチアゼムなどが用いられる。

血管拡張剤としては、例えば、塩酸オキシフェドリン、塩酸トラゾリン、硫酸パメタン、塩酸ニカルジピン、塩酸ベラパミル、塩酸パパベリンなどが用いられる。

抗圧剤としては、例えば、塩酸ヒドララジン、ブドララジン、塩酸プラザシン、メシル酸ドキサゾシン、塩酸カルテオロール、塩酸クロニジン、マレイン酸エナラプリル、カプトプリル、塩酸デラプリル、塩酸マニジピン、ピナシジル、ミノキシジル、ロサルタン、カンデサルタンシレキセチル、バルサルタン、テルミサルタン、イルベサルタンなどが用

いられる。

利尿剤としては、例えばアセタゾラミド、メタゾラミド、クロロチアジド、フロセミド、トリウムテレン、アミロリド、アミノメトロジンなどが用いられる。

降圧利尿剤としては、例えばペントリニウム、ヘキサメトニウムブロミドなどが用いられる。

#### 【0022】

循環器用剤としては、例えば、アルプロスタジル、リマプロスト、オザグレルナトリウム、硫酸クロピドグレル、ベラプロスト、シプロステン、アイロプロスト、アタプロスト、クリンプロスト、イコサペント酸エチル、塩酸エチレフリン、メシル酸ジヒドロエルゴタミン、パミコグレル、トラニラスト、プロブコール、カンデサルタンシレキセチル、クエン酸ナトリウム、DX-9065a、ヘパリン、低分子量ヘパリン、ニフェジピン、塩酸エホニジピン、塩酸ジルチアゼム、トラニラストなどが用いられる。

抗血小板薬としては、例えば、チクロピジン、サチグレル、リマプロスト・アルファデクス、クリンプロスト、硫酸クロピドグレル、シブラフィバン、エプチバチド、塩酸チロフィバン、塩酸サルボグレラート、塩酸ゼミロフィバン、酢酸オルボフィバン、イスボグレル、シロスタゾール、アスピリン、アブキシマブ、(S)-4-(4-グアニジノベンゾイルアミノ)アセチル-3-[3-(4-グアニジノベンゾイルアミノ)]プロピル-2-オキソピペラジン-1-酢酸もしくはその塩などが用いられる。

止血剤としては、エピネフリン、メナジオン亜硫酸水素ナトリウム、アセトメナフトン、トラネキサム酸などが用いられる。

抗高脂血症剤としては、例えばプラバスタチンナトリウム、シンバスタチン、フルバスタチンナトリウム、セリバスタチン、アトルバスタチンなどが用いられる。

#### 【0023】

解熱、鎮痛、消炎剤としては、例えば、アスピリン、サリチル酸ナトリウム、スルピリン、インドメタシン、ジクロフェナックナトリウム、ロキソプロフェンナトリウム、フェルビナック、ザルトプロフェン、ピロキシカム、ニメスリド、メロキシカム、セレキシコブ、チアラミド、エモルファゾン、ブプレノルフィン、臭化水素酸エプタゾシン、ペンタゾシン、酒石酸ブトルファノール、塩酸トラマゾール、ケトロラック、塩酸メペリジン、塩酸モルヒネ、硫酸モルヒネ、ハイドロモルヒネ、クエン酸フェンタニル、フェンタニル、モフェゾラクなどが用いられる。

抗リウマチ剤としては、例えば、塩酸メトトレキサート、金チオリンゴ酸ナトリウム、オーラノフィン、プシラミン、D-ペニシラミン、アクタリット、ロベンザリット、ミゾリビン、サラゾスルファピリジン、タクロリムス水和物などが用いられる。

筋弛緩剤としては、例えば、メタンスルホン酸プリジノール、塩化ツボクラリン、塩酸エペリゾン、塩酸チザニジン、カルバミン酸クロルフェネシン、塩酸トルペリゾン、ダントロレンナトリウム、バクロフェン、塩酸ランベリゾンなどが用いられる。

#### 【0024】

鎮咳去たん剤としては、例えば、塩酸エフェドリン、リン酸コデイン、塩酸ピコペリダミン、アンプロキシール、塩酸ブロムヘキシン、硫酸サルブタモール、塩酸ツロブテロール、フマル酸フォルモテロール、塩酸アゼラスチン、フマル酸ケトチフェン、ピコペリダミンなどが用いられる。

抗潰瘍剤としては、例えば、オルノプロスチル、シメチジン、ファモチジン、塩酸ラニチジン、メトクロプラミド、オメプラゾール、ランソプラゾールなどが用いられる。

鎮静剤としては、例えば塩酸クロルプロマジン、硫酸アトロピン、エナント酸フルフェナジンなどが用いられる。

抗てんかん剤としては、例えばフェニトインナトリウム、エトサキシミドなどが用いられる。

抗うつ剤としては、例えば、塩酸アミトリプチリン、塩酸イミプラミン、塩酸クロミプラミン、塩酸デシプラミン、塩酸マプロチリン、硫酸フェネルジンなどが用いられる。

#### 【0025】

抗アレルギー剤としては、例えば塩酸ジフェニルヒドラミン、塩酸トリペレナミン、塩酸クレミゾール、d-マレイン酸クロルフェニラミン、塩酸シプロヘプタジン、フマル酸ケトチフェン、エピナスチン、タクロリムス水和物などが用いられる。

糖尿病治療剤としては、例えばグリミジンナトリウム、グリピザイド、メトフォルミン、トルブタミド、クロルプロパミド、グリベンクロミド、アセトヘキサミド、ミダグリゾール、グリメピリド、セナグリニド、レパグリニド、塩酸ピオグリタゾンなどが用いられる。

#### 【0026】

抗結核剤としては、例えば硫酸ストレプトマイシン、硫酸カナマイシン、イソニアジド、塩酸エタンブトール、ピラジナミドなどが用いられる。

ホルモン剤としては、例えば $\beta$ -エストラジオール、エナント酸テストステロン、コハク酸プレドニゾロン、デキサメタゾンリン酸ナトリウム、メチマゾールなどが用いられる。

麻薬拮抗剤としては、例えば酒石酸レバロルファン、塩酸ナロルフィン、プロタミン、ナロキソンなどが用いられる。

#### 【0027】

骨吸収抑制剤としては、例えば(硫黄含有アルキル)アミノメチレンビスフォスホン酸、ラロキシフェン、アレンドロ酸ナトリウム、インカドロネ酸二ナトリウム、チボロン、シマドロネート、リセドロネート、クロドロネート酸二ナトリウム、ファレカルシトリオール、カルシトリオール、アルファカルシトリオール、ダイドロネルナトリウム、イブリフラボン、ミノドロネ酸などが用いられる。

#### 【0028】

血管新生阻害剤としては、例えば血管新生抑制ステロイド〔サイエンス (Science) 第221巻、719頁(1983年)参照〕、フマギロール誘導体〔例えば、O-モノクロロアセチルカルバモイルフマギロール、O-ジクロロアセチルカルバモイルフマギロール等(ヨーロッパ特許出願第357061号公報、同359036号公報、同386667号公報、同415294号公報参照)〕などが用いられる。

局所麻酔剤としては、例えば、塩酸リドカイン、塩酸テトラカイン、塩酸プロカイン、塩酸ベンゾカイン、塩酸エチドカイン、塩酸プリロカイン、塩酸ジブカイン、塩酸ブピバカイン、塩酸コカイン、アミノ安息香酸エチル、塩酸オルソカイン、塩酸オキセサゼイン、塩酸メピバカインなどが用いられる。

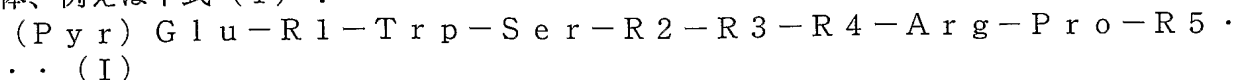
#### 【0029】

その他の有効成分としては、ペプチド、タンパク及び核酸、オリゴ糖類などの薬理活性を有する化合物が挙げられる。本明細書において、アミノ酸、ペプチド等に関し、略号で表示する場合、IUPAC-IUB コミッション・オン・バイオケミカル・ノーメンクレーチャー (Commission on Biochemical Nomenclature) による略号あるいは当該分野における慣用略号に基づくものとし、また、アミノ酸に光学異性体があり得る場合、特に明示しなければL体を示すものとする。

#### 【0030】

ペプチドとしては、次のようなペプチドが用いられる。

黄体形成ホルモン放出ホルモン (LH-RH), LH-RHと同様な作用を有する誘導体、例えば下式(I):

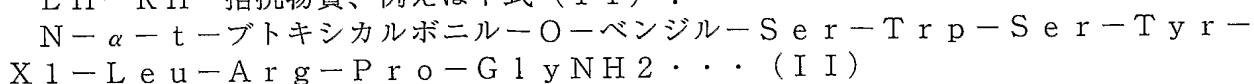


〔式中、R1はHis, Tyr, Trpまたはp-NH<sub>2</sub>-Phe、R2はTyrまたはPhe、R3はGlyまたはD型のアミノ酸残基、R4はLeu, IleまたはNle、R5はGly-NH-R6 (R6はHまたは水酸基を有していてもよい低級アルキル基) またはNH-R6 (R6は前記と同意義) を示す〕で表されるポリペプチドまたはそれらの塩〔米国特許第3853837号、同第4008209号、同第3972859号、英国特許第1423083号、プロシーディングス・オブ・ザ・ナショナル・アカデミー・

オブ・サイエンス (Proceedings of the National Academy of Science) 第78巻, 6509~6512頁 (1981年) 参照] が用いられる。

## 【0031】

LH-RH 拮抗物質、例えば下式 (II) :

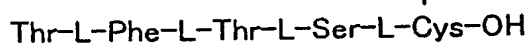
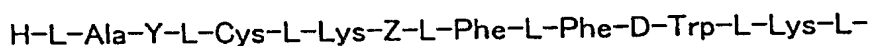


[式中、X1はD-SerまたはD-Trpを示す] で表されるポリペプチドまたはそれらの塩 (米国特許第4086219号, 同第4124577号, 同第4253997号, 同第4317815号参照) が用いられる。

インスリン; ソマトスタチン, ソマトスタチン誘導体、例えば下式 (III) :

## 【0032】

## 【化1】



(III)

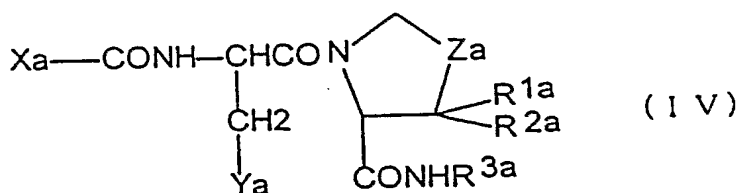
## 【0033】

[式中、YはD-Ala, D-SerまたはD-Val, ZはAsnまたはAlaを示す] で表されるポリペプチドまたはそれらの塩 (米国特許第4087390号, 同第4093574号, 同第4100117号, 同第4253998号参照) が用いられる。

副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) ; メラノサイト刺激ホルモン (MSH) ; 甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) , その誘導体、例えば下式 (IV) :

## 【0034】

## 【化2】

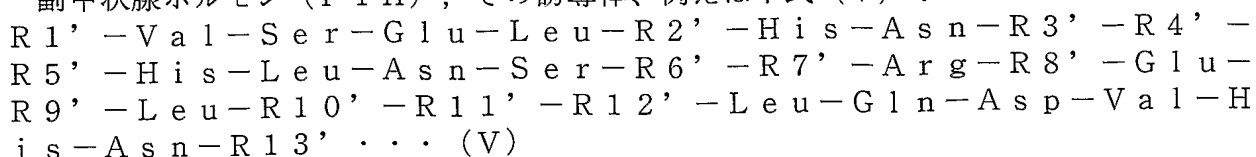


## 【0035】

[式中、Xaは4, 5または6員複素環基を、Yaはイミダゾール-4-イルまたは4-ヒドロキシフェニルを、ZaはCH<sub>2</sub>またはSを、R<sup>1a</sup>, R<sup>2a</sup>は同一または異なって水素もしくは低級アルキル基を、R<sup>3a</sup>は水素または置換基を有していてもよいアルキル基を示す] で表される化合物またはそれらの塩 (特開昭50-121273号, 特開昭52-116465号公報参照) が用いられる。

## 【0036】

副甲状腺ホルモン (PTH) , その誘導体、例えば下式 (V) :



[式中、R<sup>1'</sup>はSerまたはAib、R<sup>2'</sup>はMetまたは天然型の脂溶性アミノ酸、R<sup>3'</sup>はLeu, Ser, Lysまたは芳香族アミノ酸、R<sup>4'</sup>はGlyまたはD-アミノ酸、R<sup>5'</sup>はLysまたはLeu、R<sup>6'</sup>はMetまたは天然型の脂溶性アミノ酸、R<sup>7'</sup>はGluまたは塩基性アミノ酸、R<sup>8'</sup>はValまたは塩基性アミノ酸、R<sup>9'</sup>はTrpまたは2-(1, 3-ジチオラン-2-イル) Trp、R<sup>10'</sup>はArgまたはHi

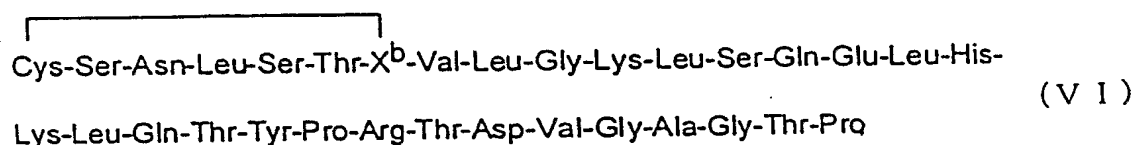
s、R11'はLysまたはHis、R12'はLys、GlnまたはLeu、R13'はPheまたはPhe-NH<sub>2</sub>を示す]で表されるペプチドまたはそれらの塩(特開平5-32696号, 同第4-247034号, ヨーロッパ特許公開第510662号, 同第477885号, 同第539491号公報参照)、ヒト型PTHのN末端(1→34位)のペプチドフラグメント(以下、hPTH(1→34)と略す)など[G. W. Tregarら、エンドクリノロジー(Endocrinology), 93, 1349-1353(1973)参照]; バソプレシン, バソプレシン誘導体{デスモプレシン[日本内分泌学会雑誌, 第54巻 第5号第676~691頁(1978)]参照}が用いられる。

## 【0037】

オキシトシン; カルシトニン、カルシトニンと同様な作用を有する誘導体、例えば下式(VI):

## 【0038】

【化3】



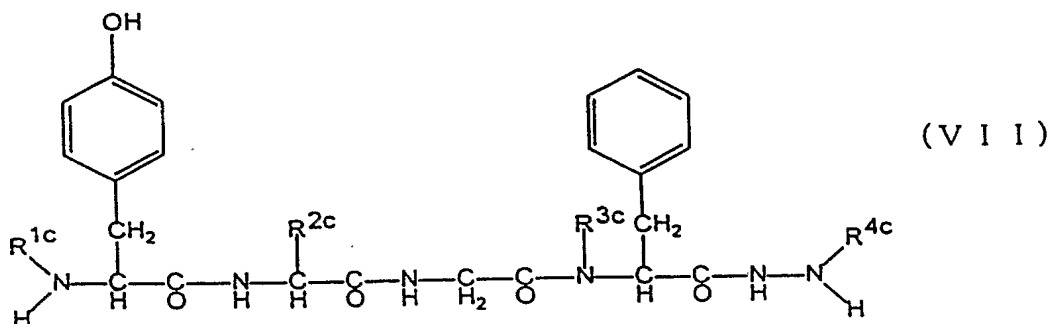
## 【0039】

[式中、X<sup>b</sup>は2-アミノスベリン酸]で表される化合物またはそれらの塩[エンドクリノロジー(Endocrinology)1992, 131/6(2885-2890)参照]; グルカゴン; ガストリン; セクレチン; コレーシストキニン; アンジオテンシンが用いられる。

エンケファリン, エンケファリン誘導体、例えば下式(VII):

## 【0040】

【化4】

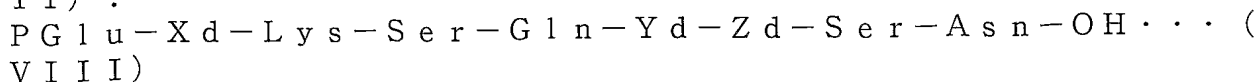


## 【0041】

[式中、R<sup>1c</sup>とR<sup>3c</sup>は水素または炭素数1から6のアルキル基、R<sup>2c</sup>は水素またはD-α-アミノ酸、R<sup>4c</sup>は水素または炭素数1から8の置換されていてもよい脂肪族アシル基を示す]で表されるペプチドまたはそれらの塩(米国特許第4277394号, ヨーロッパ特許出願公開第31567号公報参照)等のオリゴペプチドおよびエンドルフィンが用いられる。

## 【0042】

キョウトルフィン; インターロイキン(IからXI); タフトシン; サイモポイエチン; 胸腺液性因子(THF); 血中胸腺因子(FTS)およびその誘導体、例えば式(VIII):



[式中、XdはL-またはD-Ala、Yd及びZdは各々Glyまたは炭素数3から9

のD-アミノ酸を示す]で表されるペプチドまたはそれらの塩(米国特許第4229438号参照);およびその他の胸腺ホルモン[サイモシン $\alpha$ 1および $\beta$ 4, サイミックファクターX等、医学のあゆみ、第125巻、第10号、835-843頁(1983年)参照]が用いられる。

モチリン; デイノルフィン; ボムベシン; ニュウロテンシン; セルレイン; ブラディキニン; ウロキナーゼ; サブスタンスP; ポリミキシンB; コリスチン; グラミシジン; バシトラシン; タンパク合成刺激ペプチド(英国特許第8232082号参照); 胃酸分泌抑制ポリペプチド(GIP); バソアクティブ・インテイスティナル・ポリペプチド[vasoactive intestinal polypeptide (VIP)]; プレートレット・ディライブド・グロース・ファクター[platelet-derived growth factor (PDGF)]; 成長ホルモン分泌因子(GRF, ソマトクリニン)などが用いられる。

#### 【0043】

これらの生理活性ペプチドはヒト型でも他の動物、たとえばウシ、ブタ、ニワトリ、サケ、ウナギ由来のものでもよく、さらにはヒトとそれら動物由来のもののキメラ体でもよい。さらに一部構造を変化させた活性誘導体でもよい。例えば、ブタ由来のインスリンや、カルシトニンではブタ、ニワトリ、サケ、ウナギ由来のものあるいはヒトとサケのキメラ体であって、下式(IX):

Cys-Gly-Asn-Leu-Ser-Thr-Cys-Met-Leu-Gly-Lys-Leu-Ser-Gln-Glu-Leu-His-Lys-Leu-Gln-Thr-Tyr-Pro-Arg-Thr-Asn-Thr-Gly-Ser-Gly-Thr-Pro... (IX)

で表されるペプチド[エンドクリノロジー(Endocrinology)1992, 131/6(2885-2890)参照]などが用いられる。

#### 【0044】

また、薬物には、薬物の溶解速度調節剤、安定化のための添加剤、吸着防止剤等を加えることができる。

吸収材としては、液体を良好に吸収できる材料が選択され、例えば、ポリエステル(ポリエチレンテレフタレート)、多糖類またはセルロース誘導体(レーヨン、綿)、ポリアミド(ナイロン)、その不織布、織布、ガーゼ、またはスポンジなどの多孔質体、または、親水性高分子(寒天、アガロース、アルギン酸、キサンタンガム、グアーガム、デキストラン、デキストリン、プルラン、キトサン、ゼラチン、カルボキシビニルポリマー、ポリアクリル酸塩、カルボキシメチルセルロース塩、ポリオキシアルキレン、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリアクリルアミド)、イオン交換樹脂(amberlite、diaion、コレスチラミン)等が挙げられるが、好ましくは、例えば、レーヨンを主体とする不織布である。

#### 【0045】

壁材としては、非透水性の材料が選択され、例えば、発泡ポリオレフィン(PE、PPなど)、発泡ポリウレタン、発泡ポリスチレン、発泡ゴム(ポリブチレンなど)、発泡EVA、発泡PVC等が挙げられるが、好ましくは、例えば、発泡ポリオレフィンである。

粘着層としては、例えば、天然ゴム、スチレン-イソプレン-スチレンブロック共重合体、スチレン-ブタジエンゴム、スチレン-イソプレンゴム、ポリイソブチレン、ポリイソプレン、ポリアクリレート、シリコンゴム等が挙げられるが、好ましくは、例えば、ポリアクリレートである。

支持体としては、非透水性の材料が選択され、例えば、発泡ポリオレフィン(PE、PPなど)、発泡ポリウレタン、発泡ポリスチレン、発泡ゴム、発泡EVA、発泡PVC等が挙げられるが、好ましくは発泡ポリオレフィンが用いられる。

#### 【0046】

溶解液溜めとしては、例えば、PET、PVC、PVDC、PP、PE、ポリスチレン、環状ポリオレフィン(COC)、Al、及びこれらの積層体よりなるシート材をドーム状に成型し、その内

部に凸状の突起部を形成した成型シート、または、バリアー性の高いシート（PCTFE/PP系、PCTFE/PVC系、環状ポリオレフィン/PP系）、Al蒸着やSiO<sub>2</sub>蒸着シート等が挙げられる。溶解液溜めは、凸状の突起部を押圧することにより、隔膜または隔膜と支持体の積層体の少なくとも1ヶ所が破壊される。凸状の突起部は、円錐状では破壊される部分が点になり、溶解液の吸収材側への浸透が悪い、凸状の突き破り部分（突起部の先端部）は線状または面状であることが好ましい。材料はPCTFE（-CF<sub>2</sub>-CFCl-）<sub>n</sub>ポリ（クロロトリフルオロエチレン）、COC環状ポリオレフィン共重合体でもよい。シートの厚みは例えば100～500μmとされる。溶解液溜めは、好ましくは、例えば、PP、PP/COC/PP、PCTFE/PP系が用いられる。

隔膜（突起部で破られる膜）としては、例えば、Al、Ti、Ag、PP、PE及びこれらの積層体が挙げられる。Al箔は、必要に応じ腐食を防止するためのコーティング等を施すことが好ましい。隔膜の厚みは、例えば、Alでは5～100μm、PPやPEでは15～50μmとされる。

#### 【0047】

溶解液としては、例えば、水、アルコール類、多価アルコール、界面、活性剤類、糖類、pH調節剤（有機および無機酸類・塩基類）、塩類、水溶性高分子、溶解剤、吸収促進剤、油脂類、保存剤等が挙げられるが、好ましくは、例えば、水+多価アルコール、精製水、グリセリン、メチルパラベン、（プロピルパラベン、プロピレングリコール）等である。

ライナーとしては、例えば、PET、PEN、PP、PE、紙、Al、これらの積層体等が挙げられるが、好ましくは、PETである。また、シリコン処理などの離型性表面処理を行うことが好ましい。さらに、薬物を含む部材に接触しないように、ライナーを凹状に加工することができる。

乾燥剤としては、予め包装されたシリカゲル、酸化Ca、塩化Ca、塩化Mg、モンモリロナイト、ゼオライトを用いることができる。

電極としては、Ag、AgCl、Ti、カーボンが挙げられるが、好ましくは、Ag、AgCl等である。電極は隔膜を兼ねることができる。隔膜を兼ねない場合は、支持体と同様に開口をもうける。開口は、一箇所以上で直径2mm以上とする。

#### 【0048】

図2は、本発明に係る用時活性化型イオントフォーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスが図1のものと異なる点は、薬物を含有する吸収材11の下面に溶液透過膜21を備えたところにあり、その他は図1のものと同様である。溶液透過膜21は、吸収材を保持するために有効であり、さらに粉末状の物質を含む際の保持手段として設けられるものである。

溶液透過膜としては、例えば、多孔質膜またはイオン交換膜を用いることができる。多孔質膜としては、例えば、PE、PP、セルロース、セルロースアセテート、PET、ナイロン等が挙げられる。イオン交換膜としては、例えば、陽イオン交換膜、陰イオン交換膜、複合荷電膜等が挙げられるが、好ましくは、ナイロン系の陽イオン交換膜である。但し、吸収材が不織布のときは溶液透過膜はなくてもよい。

#### 【0049】

図3は、本発明に係る用時活性化型イオントフォーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスは、図1の薬物を含有する吸収材11を、薬物を含有しない吸収材31と薬物を含有する薬物含有層32の2つに分けたものであり、その他は図1のものと同様である。吸収材31と薬物含有層32を分けた理由は、薬物を生体に高濃度で接触させることで、薬剤の吸収を最大限に発揮するためである。

薬物含有層としては、例えば、多孔質膜またはイオン交換膜に薬物を含有させたものを用いることができる。多孔質膜としては、例えば、PE、PP、セルロース、セルロースアセテート、PET、ナイロン等が挙げられる。イオン交換膜としては、例えば、陽イオン交換膜、陰イオン交換膜、複合荷電膜等が挙げられるが、好ましくは、ナイロン系の陽イオン交換膜である。

#### 【0050】

図4は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスは、上述の図1～図3の例とは異なり、用時に溶解液溜めを取り外して用いるものである。本例は、図示のように、支持体45と、支持体45上面に配置された電極55と、支持体45および電極55上に配置され乾燥薬物40を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材41と、支持体45上で吸収材41の周囲に配置され上面に粘着層42を有する壁材43と、吸収材41および粘着層42上に配置され中央部に開口44を有するライナー49と、ライナー49上に配置された隔膜50と、隔膜50上に配置され薬物を溶解する溶解液を隔膜50との間に保持し押圧により隔膜50を破壊するための突起部47を有する溶解液溜め48とを備える。突起部47は、図1のものと同様に構成される。ライナー49は粘着層42に取り外し可能に取り付けられている。ライナーの開口44の形状および寸法は図1の場合と同様である。

#### 【0051】

用時には、まず、溶解液溜め48の上面を押圧すると、突起部47が隔膜50を破る。この際、隔膜50は突起部47からの圧力で破れ、内部の溶解液がライナー49の開口44を介して吸収材41に流れる。この溶解液により、吸収材41が湿潤状態となり薬物40がまんべんなく活性化される。その後、溶解液溜め48とともにライナー49を取り外し、本デバイスを皮膚に貼る。図1の場合と同様に、イオントフォレーシス用の電源装置を始動させることにより電圧または電流が本イオントフォレーシスデバイスおよびカウンターデバイス間に付与される。これにより、活性化された薬物が皮膚に浸透する。本例では、用時にデバイス本体から溶解液溜め48をライナー49とともに取り外すので、用時には溶解液溜め48中の溶解液が空になるまで待つて貼付することが好ましい。

#### 【0052】

図5は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスが図4のものと異なる点は、薬物を含有する吸収材41の上面に溶液透過膜51を備えたところにあり、その他は図4のものと同様である。ここで、溶液透過膜51を設けた理由およびその材料は、上述の図2の場合と同様である。

#### 【0053】

図6は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスは、図4の薬物を含有する吸収材41を、薬物を含有しない吸収材61と薬物を含有する薬物含有層62の2つに分けたものあり、その他は図4のものと同様である。ここで、吸収材61と薬物含有層62を分けた理由およびその材料は、上述の図3の場合と同様である。

#### 【0054】

図7は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスのさらに他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスが図1のものと異なる点は、吸収材および粘着層の下面に吸収材との対向部分が凹形状をしたライナー79を備えたところにあり、その他は図1のものと同様である。ここで、ライナー79を凹状に加工するのは、ライナーが薬物を含む部材に接触しないようにするためである。

#### 【0055】

図8は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスのさらに他の構成例を示す断面図である。本例のデバイスが図3のものと異なる点は、薬物含有層および粘着層の下面に薬物含有層との対向部分が凹形状をしたライナー89を備えたところにあり、その他は図3のものと同様である。ここで、ライナー89を凹状に加工するのは、ライナーが薬物を含む部材に接触しないようにするためである。

#### 【0056】

図9は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスに用いる溶解液溜めの一構成例を示す図で、(a)は平面図、(b)は(a)のX-X断面図、(c)は(a)のY-Y断面図である。本例では、用時に溶解液溜めの溶解液ができるだけ液残りなく吸収材へ供給されるように構成を工夫したものである。本例の溶解液溜め90は、溶解液91を保持し、用時に隔膜92を押圧により破るための突起部93を備える。図示のよう



に、本例の隔膜 92 の溶解液接触部は長円形状を有し、隔膜 92 自体は円形状を有する。突起部 93 は、隔膜 92 の溶解液接触部の長円形状の長手方向に伸びる線状の先端部 94 を有する。いま、線状の先端部 94 の長さを  $L1$  とし、隔膜 92 の溶解液接触部の長手方向の長さを  $L2$  としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L1 \leq 0.5 \times L2$  の関係を満たすように設計される。これにより、用時に突起部 93 が押圧されたとき、隔膜 92 が線状の先端部 94 に沿って大きく破れ、溶解液 91 が良好に外部に流れ、液残りを少なくすることができる。なお、本例では、線状の先端部 94 が隔膜 92 と離隔して配置されているが、両者を接触させてもよい。

#### 【0057】

図 10 は、本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスに用いる溶解液溜めの他の構成例を示す平面図である。本例の溶解液溜め 100 が図 9 のものと特に異なる点は、本例の隔膜 102 の溶解液接触部が隔膜 102 と同様に円形状とされていること、および突起部 103 が十字状の先端部 104 を備えていることである。いま、十字状の先端部 104 の長さをそれぞれ  $L10$ 、 $L11$  とし、隔膜 102 の溶解液接触部の直径を  $L2$  としたとき、 $0.1 \times L2 \leq L10 \leq 0.5 \times L2$  および／または  $0.1 \times L2 \leq L11 \leq 0.5 \times L2$  の関係を満たすように設計される。これにより、用時に突起部 103 が押圧されたとき、隔膜 102 が十字状の先端部 104 によって大きく破れ、溶解液が良好に外部に流れ、液残りを少なくすることができる。

#### 【0058】

図 11 は、本発明に係る支持体またはライナーの一構成例を示す断面図である。本例は、用時に溶解液溜めの溶解液が速やかに吸収材へ供給されるように構成を工夫したもので、図 1～図 3、図 7、図 8 の構成例では支持体に、また図 4～図 6 の構成例ではライナーに適用可能である。本例の支持体 115 またはライナー 119 は、図示のように、溶解液の通る開口 114 の周辺部がそれ以外の部分よりも吸収材側、すなわち溶解液溜め 118 の反対側にへこんでいる。これにより、支持体 115 またはライナー 119 と溶解液溜め 118 との間に隙間 110 が形成される。そして用時に溶解液溜め 118 が押圧されたとき隔膜 113 が破れ、この破れた隔膜の一部がこの隙間 110 に広がることができるので、溶解液が速やかに開口 114 へ流れ、また溶解液溜め中の溶解液の液残りを少なくすることができる。

#### 【0059】

図 12 は、本発明に係る支持体またはライナーの他の構成例を示す断面図である。本例もまた、用時に溶解液溜めの溶解液が速やかに吸収材へ供給されるように構成を工夫したもので、図 1～図 3、図 7、図 8 の構成例では支持体に、また図 4～図 6 の構成例ではライナーに適用可能である。本例の支持体 125 またはライナー 129 は、図示のように、周辺部から開口 124 に向かって吸収材側へ傾斜を設けたものである。この場合も、支持体 125 またはライナー 129 と溶解液溜め 128 との間に隙間 120 が形成される。そして用時に溶解液溜め 128 が押圧されたとき、隔膜 123 が破れ、溶解液が周辺部に広がることなく速やかに開口 124 へ流れ、また溶解液溜め中の溶解液の液残りを少なくすることができる。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0060】

本発明は、医療分野のイオントフォレーシスデバイスに適用することができる。本発明に係る溶解液溜めを有する用時活性化型イオントフォレーシスデバイスにより、薬物の安定性を維持し、汎用性及び実用性に優れ、簡便に使用できるイオントフォレーシスデバイスを得ることができる。また、用時に溶解液溜め中の溶解液の液残りを少なくすることができるので、イオントフォレーシスデバイス中の薬物濃度を規定どおりに確保することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0061】

【図 1】 本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの一構成例を示す

図で、(a) は平面図、(b) は (a) の X-X 断面図である。

【図 2】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。

【図 3】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。

【図 4】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。

【図 5】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。

【図 6】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスの他の構成例を示す断面図である。

【図 7】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスのさらに他の構成例を示す断面図である。

【図 8】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスのさらに他の構成例を示す断面図である。

【図 9】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスに用いる溶解液溜めの一構成例を示す図で、(a) は平面図、(b) は (a) の X-X 断面図、(c) は (a) の Y-Y 断面図である。

【図 10】本発明に係る用時活性化型イオントフォレーシスデバイスに用いる溶解液溜めの他の構成例を示す平面図である。

【図 11】本発明に係る支持体またはライナーの一構成例を示す断面図である。

【図 12】本発明に係る支持体またはライナーの他の構成例を示す断面図である。

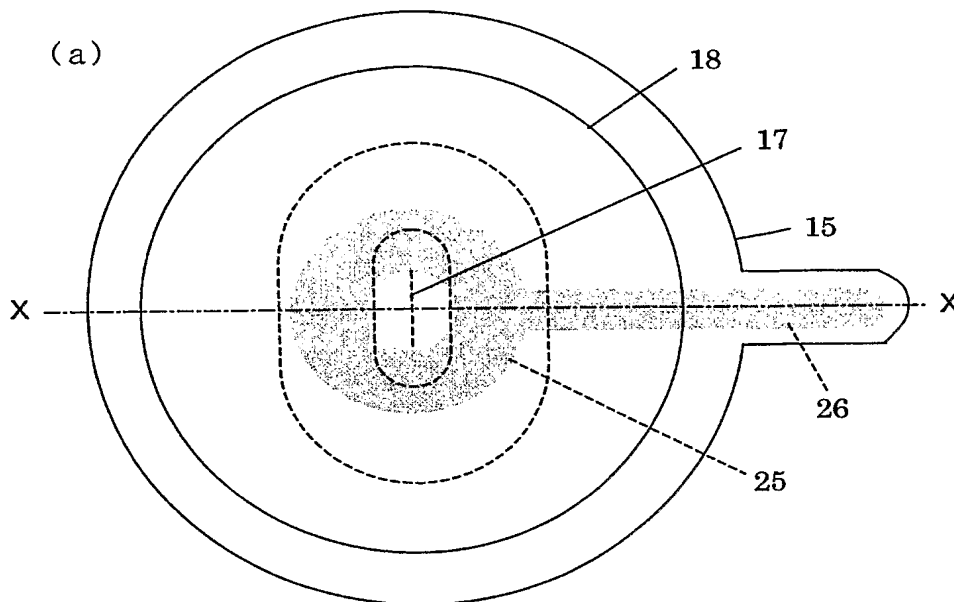
【符号の説明】

【0 0 6 2】

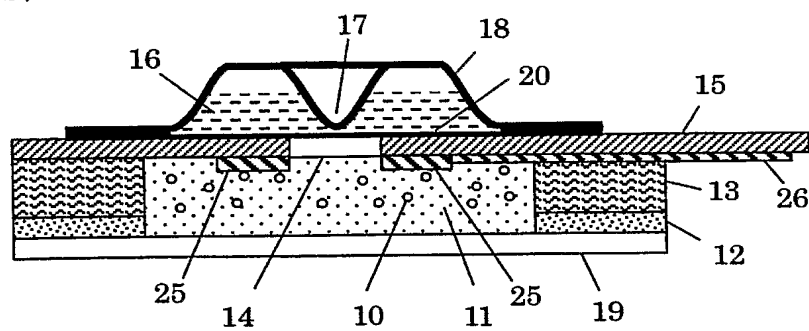
- 1 0、4 0 薬物
- 1 1、4 1 乾燥薬物を含有する吸収材
- 1 2、4 2 粘着層
- 1 3、4 3 壁材
- 1 4、4 4 開口
- 1 5、4 5 支持体
- 1 6、4 6、9 1 溶解液
- 1 7、4 7、9 4 突起部
- 1 8、4 8、9 0 溶解液溜め
- 1 9、4 9、7 9、8 9 ライナー
- 2 0、5 0、9 2 隔膜
- 2 1、5 1 溶液透過膜
- 2 5、5 5 電極
- 2 6、5 6 リード部
- 3 1、6 1 薬物を含有しない吸収材
- 3 2、6 2 薬物含有層

【書類名】 図面

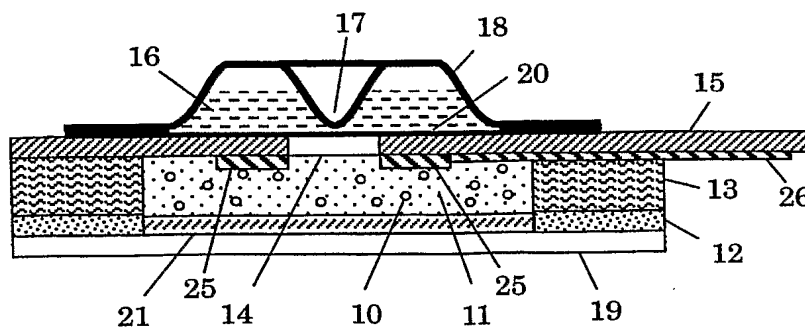
【図 1】



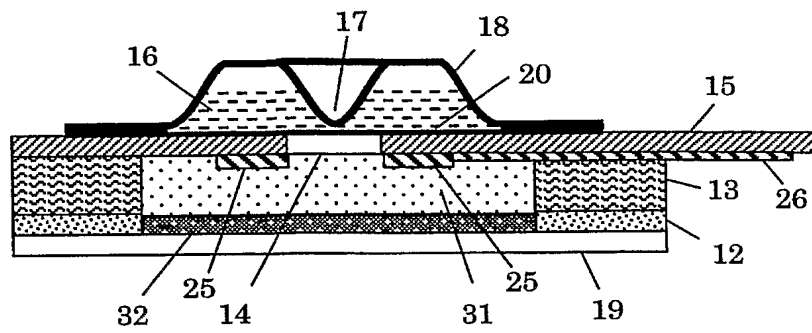
(b)



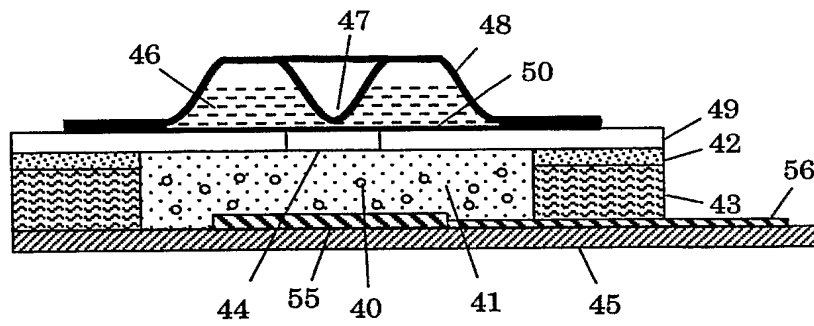
【図 2】



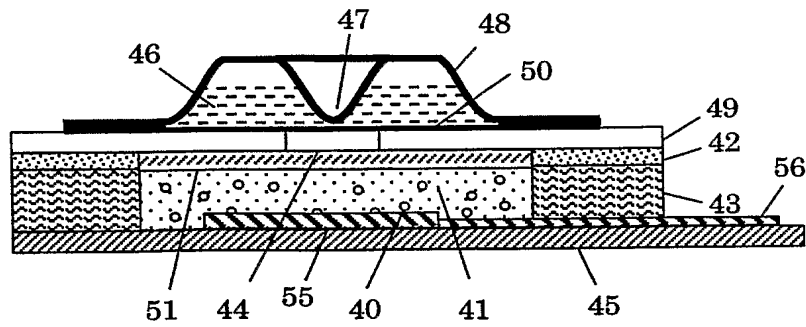
【図 3】



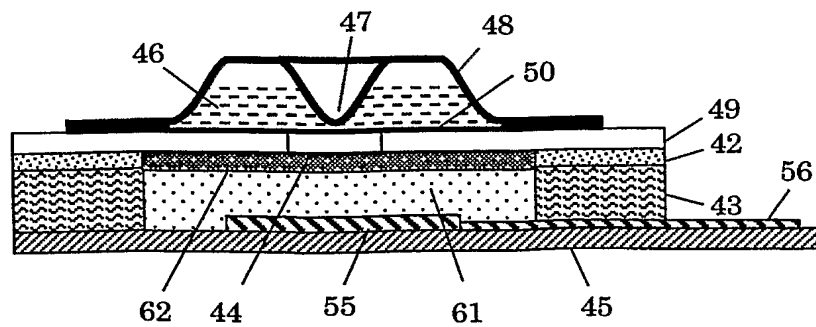
【図 4】



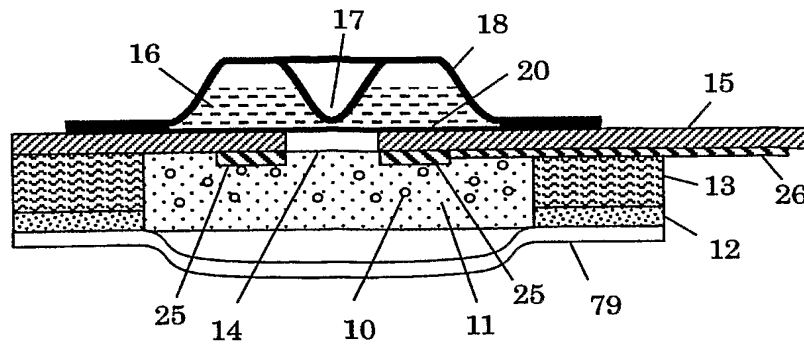
【図 5】



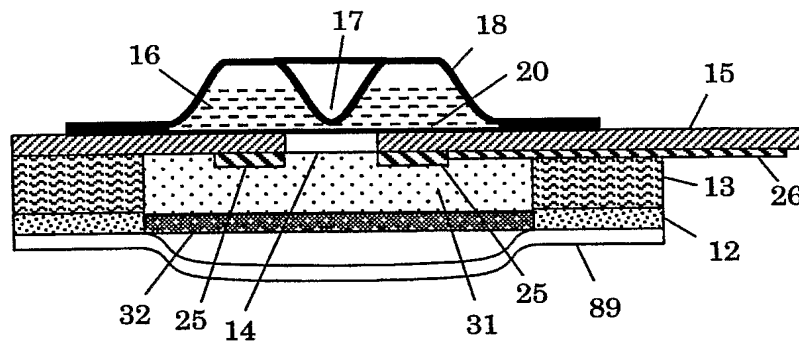
【図 6】



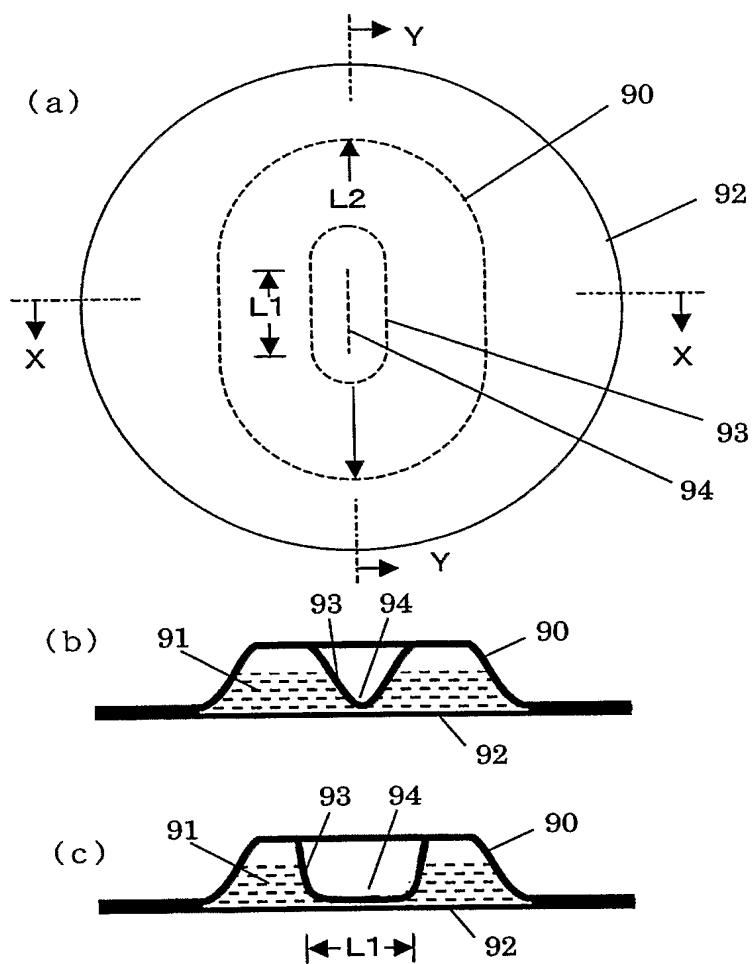
【図 7】



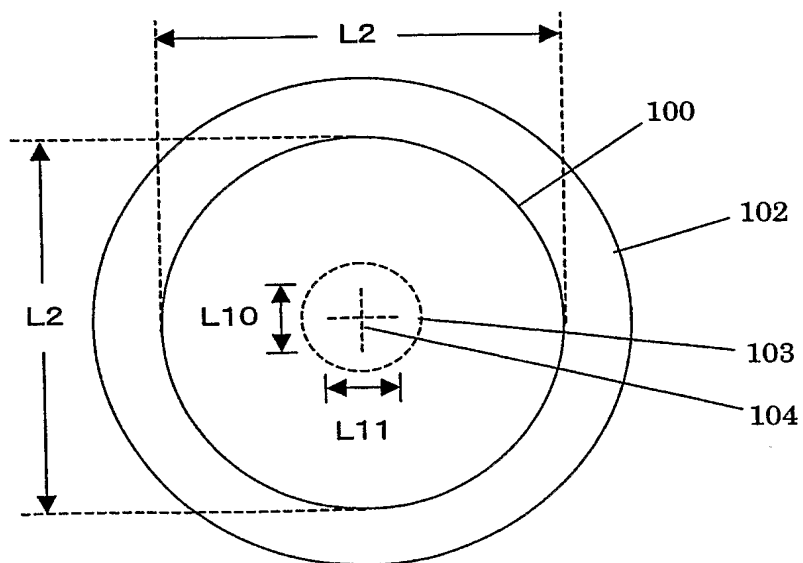
【図 8】



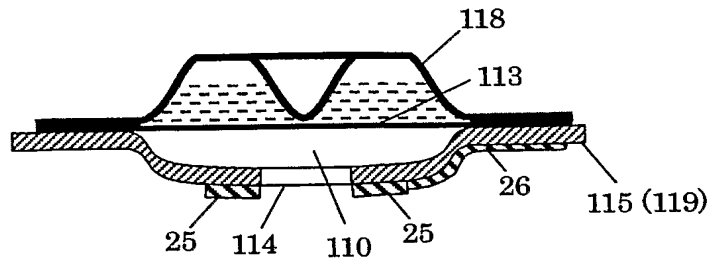
【图 9】



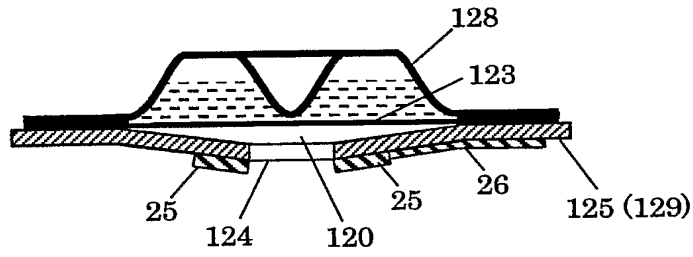
【図 10】



【図 11】



【図 12】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 用時に溶解液を薬物の量に応じた量で供給することができる用時活性化型イオントフォレーシスデバイスを提供する。

【解決手段】 この用時活性化型イオントフォレーシスデバイスは、乾燥した薬物 1 0 を含有するとともに液体を吸収できる材料で構成された吸収材 1 1 と、吸収材 1 1 の周囲に配置され下面に粘着層 1 2 を有する壁材 1 3 と、吸収材 1 1 および壁材 1 3 上に配置され中央部に開口 1 4 を有する支持体 1 5 と、支持体 1 5 下面に配置された電極 2 5 と、支持体 1 5 上に配置された隔膜 2 0 と、隔膜 2 0 上に配置され薬物を溶解する溶解液を隔膜 2 0 との間に保持し押圧により隔膜 2 0 を破壊するための突起部 1 7 を有する溶解液溜め 1 8 とを備える。突起部 1 7 は、例えば線状の先端部を有しており、隔膜 2 0 に接触または近接して配置される。吸収材 1 1 および粘着層 1 2 の下面にはライナー 1 9 が取り外し可能に取り付けられている。

【選択図】 図 1



認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 4 3 4 8 5 4
受付番号	5 0 3 0 2 1 5 2 1 0 7
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 6 年 1 月 5 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成15年12月26日

特願 2 0 0 3 - 4 3 4 8 5 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 1 6 0 5 2 2 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 1 3 日

[変更理由]

新規登録

住 所

佐賀県鳥栖市田代大官町 4 0 8 番地

氏 名

久光製薬株式会社